令和元年度　学校支援ボランティア交流会　実施報告

上田市では市内全小中学校でコミュニティスクールに取組んでいます。しかし進捗状況は地域によってさまざまで、互いの活動を知る機会がありませんでした。そこで、コミュニティスクールをより充実し、拡げていくためには、各地域の活動に学び、関わる人々が、ともに交流とつながりの機会を持つことが非常に重要です。互いにゆるやかにつながり、学びを深めることで、より良い支援へとつなげていきたいとの願いで、学校支援ボランティア交流会を開催しました。

■　日　時	令和2年1月24日（金）13:30～16:00
■　場　所	上田市丸子文化会館　セレスホール　小ホール
■　参加者	76名（ボランティア、コーディネーター、学校評議員、公民館関係者等）

■　内　容

第１部

リレートーク

①長小学校

NPO 法人　ほこほコネクト　理事長　　宮下　俊哉さん

「資料室の整備」

長小学校には、地域から寄贈されたさまざまな資料が納められた資料室があります。しかし、長年利用されることなく、放置されたままになっていました。今年度になって、「この資料室を整備し、児童の学習に役立てたい」 また、「地域住民の交流の場(ボランティアルーム)として活用してはどうか」ということになり、専門家（地域住民）と真田中学校の生徒たちとともに資料室を整備しています。片付けが進むと、放課後に子どもたちが資料室に立ち寄り、質問攻めです。皆が学校内の「新しい居場所」を楽しみにしています。



お宝がいっぱい

②西小学校

「西小文庫ぶんぶんぶん」（読み聞かせ）ボランティア　　久保　やす子さん

「読み聞かせに地域の力を」

西小学校では、20 年以上前から PTA を中心にした読み聞かせサークル「西小文庫ぶんぶんぶん」が活動していました。今年度になって、地域住民にもその門戸を拡げ、活動が始まりました。ボランティアの皆さんは、子どもたちが喜ぶ顔を想像しながら、本選びや練習に励んでいます。大好きな絵本を通じて子どもたちに物語の楽しさを知り、物事を判断し意見を持つ力を身につけていってくれればと願っています。



絵本の楽しさが届きますように

また、学校に地域住民の居場所や活躍の場所があることを、とてもしあわせに思っています。

③東小学校

太鼓クラブ講師　ボランティア　　長谷川　忠男さん

「太鼓を通じて伝えたい心」

東小学校の4～6年生が参加するクラブ活動の一つに「太鼓クラブ」があります。長谷川さんは、その指導者としてボランティア活動をしています。子どもたちが使用する和太鼓は、近隣の(染屋)自治会が所有しているものです。

活動は、年 8 回ほどです。限られた時間の中ですが、子どもたちは熱心に練習に打ち込み、最後は、全校の前で演奏を披露します。そのひたむきさや眼差しに、指導する大人は元気をもらいます。

地域住民として、子どもたちのためにできる活動を続けていきたい。



よー、ドンドドン！！

④川辺小学校

コミュニティスクール運営委員会　コーディネーター　　滝沢　康之さん

「みんなでつくった資料室」



ぜひ、お出かけください

昨年 11 月に川辺小学校内に完成した「川辺泉田地域歴史資料館」は、地域住民と川辺小学校の児童が一緒になって作り上げた資料室です。学校内の空き教室だった場所にボランティアルームを兼ねた資料室を作ろうと一昨年から活動が始まりました。かつては小学校から離れた場所にあった資料館でしたが、子どもたちに昔の生活の様子や地域の歴史をしっかりと伝えていきたいという地域の願いで、手作りの資料館ができあがりました。

川辺小の児童も、そうじをしたり、昔の農村風景を想像して四季の風景画を描いたりして協力しました。

資料室内には、囲炉裏がある茶の間が設えられ、大人と子どもの交流の場となっています。大切に守っていきたい居場所です。

⑤豊殿小学校

ガンバ応援団　コーディネーター　　滝澤　育子さん

「バリエーション豊かな体験活動を」



熱いから、気をつけて

豊殿小学校の学校応援団の名前は「ガンバ応援団」といいます。地域の大人がいつも「がんばれ、がんばれ」と子どもたちを応援しているそうです。

主な活動内容は、２時限と３時限の間の休み時間に開設する「ガンバルーム（遊びの時間）」や、総合的な学習として行う体験活動の支援、また、広い校舎の敷地の草刈り等の環境支援です。特に、　稲倉の棚田で行う手作業の田植えや稲刈り、脱穀等の農作業や炭焼き等、豊殿地域ならではの体験活動が行われ、地域住民がいきいきと活躍しています。

今後の課題としては、個々に行っている地域の支援を皆で共有できる機会を設け、より一層の活動の充実を図ることです。

⑥丸子中央小学校

コミュニティルーム　ボランティア　　竹花　のり子さん

「地域の思いが詰まったコミュニティルーム」



コミュニティルーム最高

丸子中央小学校では、今年度から「コミュニティルーム」が開設されました。市内で先進的な取組をしている神科小学校の「おたすけっとルーム」を参考に、児童と地域の大人たちの交流の場として、毎週月・木曜日の２時限と３時限の間の休み時間に開かれています。当初は、１年生を対象にスタートして、学校と相談しながら順次学年を拡げて現在は４年生にまで拡大しています。人気が人気を呼び今では毎回、教室に入りきらない程の子どもたちがやってきます。「今は、１～４年生ですが、いずれは全校に開放できるといいですね」とボランティアの皆さんが目を輝かせています。

併せて、丸子中央小学校では敷地内の空き地に地域の協力で畑が出来上がり、２年生が野菜作りを始めました。多い時には、キュウリが 100 本以上、ミニトマトを２学年の児童全員が家庭にお土産に持ち帰れるほどの収穫でした。

地域と学校が協働しながら、一人ひとりの子どもたちを大切にし、地域全体が温かい気持ちで関わっていかれるよう日々心掛けています。

⑦中塩田小学校

教頭　　角　正行さん



ため池のことを学ぼう

「中塩田小学校のコミュニティスクール」

中塩田小学校のコミュニティスクールは、大きく４つの柱で構成されています。

まずは「読み聞かせ」です。15年ほど前から、保護者と地域の方が一緒に活動してくださっています。また、毎週火曜日には「丸付けボランティア」が宿題の丸付けに来校されます。

児童の登下校時には「見守り隊」の皆さんが、交差点に立ったり、一緒に登校してくださいます。その他にも、総合的な学習の地域学習では、塩田地域のため池について教えていただいたり、英語学習の支援をしていただいています。

その他に「オヤジの会」の皆さんには、年１回の盈進まつりを企画・運営や、運動会前日のグランド整備と、多方面の支援をしていただいています。

⑧川西小学校

「子どもたちに届け、絵本の世界」

「シャボン玉」（読み聞かせ）ボランティア　　清水　圭子さん



子どもと絵本をまんなかに
（打合せの風景）

川西小学校のサークル「シャボン玉」では、地域住民が月２回の読み聞かせを行っています。

打合せでは、子どもたちの様子や選書のコツ、地元の民話についての情報共有などが話されます。子どもたちの前で読む本に偏りがないよう、発足当初から記録し続けている「読み聞かせノート」は、会の宝物です。

「シャボン玉の時間が大好きです。また来てください。たのしみにしています」等という児童からの手紙を受け取ると、活動を続けてきてよかったと心から思います・

⑨武石小学校

住みよい武石をつくる会　子育て教育文化部会　会長　　小林　慎一さん



真剣勝負。でも、子どもには勝てない

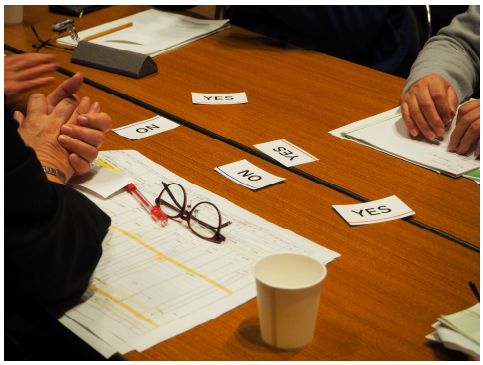
「武石の子は、武石で育てる」

武石地域では、住民自治組織である「住みよい武石をつくる会」の子育て教育文化部会と公民館がタイアップして、コミュニティスクールを進めています。

個々の活動の集大成として、年１回開催する「たけし子育て教育フォーラム」では、小中学生の活動の報告のほかに、分科会で発表を深め合ったり、30年程前に地域の名所や旧跡を中心にして、武石小学校の児童が作った「武石ふるさとかるた」を大人も子どもも皆で楽しみます。

このフォーラムの分科会で出された意見を参考に、年に数回ですが、ふるさとかるたをめぐるウォークラリーも開催されるようになりました。

また、３年前からは公民館で３泊４日の通学合宿が始まり、「武石の子どもは、武石で育てる」という機運が高まっています。

第２部 交流会 ワークⅠ	【自己紹介と感想の共有】（20 分） それぞれのグループ（9 グループ×6～7 人）ごとに意見交換。 「話し合いのテーマ」 ①私の活動（自己紹介と併せて） ②今日の感想 「出されたおもな意見」（アンケートより） （感想） ○多くの学校の実践例に、こんなにもすごい活動をしている、それを支え創りだしているボランティアの皆さんの、子どもたちの未来に向け幸せに育っていってほしい願いに満ちていることに感動しました。 ○5 分間という身近い時間の中で、素晴らしい発表ばかりで、感動した。 ○学校支援ボランティアとして、それぞれの立場や思いを知ることができてよかった。 ○各校の活動内容がよくわかった。 ○1 校（@5 分）の発表は、飽きないでよい。ポイントだけでよかった。 ○多少気ぜわしく、聞き取るにも、メモをとるにも忙しかったが多くの学校で素晴らしい取組をしていて、力強く思った。 ●ベルは発表者が焦ってしまうので気の毒に感じた。十分時間があるのでベルは必要ないのでは？ ●CS 運営全般の話がなく、一部の話に終わったのが残念。  発表の様子。5 分は、あっという間！  まずは、自己紹介
ワークⅡ	【CS クロスロードに挑戦】（30 分） 「クロスロード」とは、阪神・淡路大震災で実際に問題となった「災害対応ジレンマ」をカードゲーム形式の防災教材。今回は、コミュニティスクールバージョンのクロスロードゲームを使用しグループワークを実施した。  Yes or No 緊張の一瞬  会場内は、終始なごやか

	(感想) 〇CS クロスロードを使っての意見交換が、とても分かりやすく発言しやすくて参考になった。 〇クロスロードは、楽しくてよいですね。他の方の意見で、自分と違った捉え方があることに気づかされた。 〇物事を見るときに、広い視野の必要性を改めて学んだ。 〇ワークショップ面白かった。考え方のいろいろを知った。 〇自分では気づかない意見を聞けてよかった。 〇「正解」のない質問は、考えさせられることが多かった。 ●クロスロードの時間が、もう少し欲しかった。
成果と課題	【成果】 ■ 学校支援プロジェクトの取組みとして初めて、市内全域から9校（9公民館からの推薦）のリレートーク（事例発表）と交流会の開催となった。限られた制約（写真５枚・５分間）の中でのプレゼンテーションだったが、それぞれに素晴らしい発表だった。他校の活動を知ることで、互いの刺激になり、次の活動につながるきっかけとなった。 ■ 会場内は終始和やかな雰囲気で、日頃の活動について活発に意見交換をすることができた。閉会後に参加者同士が連絡先の交換をする場面等も見られ、今後もこのような機会をたくさん作っていくことの重要性を感じた。 ■ 同じ学校で活動していても、活動時間帯が違うためになかなか顔を合わす機会がない方々も、今回の交流会を通してじっくりと話をするよい機会となった。 ■ 上田市内から多くの学校評議員や住民自治組織の委員の参加があり、コミュニティスクールの活動を実際に知っていただくことができた。 ■ 事例発表校の選定や発表までのサポートを公民館のプロジェクト委員が担当していただき、当日も委員全員で運営にあたることができた。今後も、プロジェクトの委員が役割分担をし、更に活動を充実していきたい。 ■ 会場内にドリンクバーを設置し、和やかな雰囲気での開催となった。 【課題】 ■ 今後、より多くの参加者を得ていくための周知（発信）の仕方。そのためにも、実施報告を次回の案内通知に同封したり、ホームページを整備して発信する等の工夫をしたい。 ■ 交流会の持ち方（学校単位→中学校区単位→公民館単位→市内全体など）をさらに検討し情報交換や交流の場を増やせるよう教育委員会としてバックアップをしていく方策を考えたい。 

（文責　伴美佐子）